

# 令和元年度事業報告書

## 1. 概況

令和元年度における当法人を取り巻く環境は引き続き厳しく、財団新居浜病院・豊岡台病院とともに入院患者数が前年度より下回り、東城看護専門学校においても学生数が定員を割る状況にある。

法人全体の収益は昨年より大幅に悪化し、今後も経営健全化に向けて、更なる努力が必要である。

また、県内においても新型コロナウイルス感染症が拡大したが、感染防止対策を日々強化し今後も継続して適切に対応していきたい。

## 2. 令和元年度事業計画に基づく事業活動の状況

当期における事業活動の状況は、概ね次のとおりである。

### (1) 精神衛生の研究

#### ①患者の治療・社会復帰に関する調査研究

医師をはじめ、看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が日常業務の中で、継続的に調査研究を実施している。

#### ②精神衛生の統計ならびに一般財団法人新居浜精神衛生研究所紀要の発行

当法人既発行の紀要や、外部の紀要等の事例をもとに、引き続き発行に向けて準備を続けている。

#### ③入院患者の考察に基づく院内看護研究発表会の開催

院内の研究発表会や勉強会等による研修・研究を通して、また、院外の学会や研修会等に積極的に参加することにより、医療に関する研究考察・質的向上に努めた。

財団新居浜病院では、9件のテーマについて看護部院内研究発表会を開催し、豊岡台病院では、17回の勉強会を実施した。また、院内外の研修会等への参加は、財団新居浜病院では57回、豊岡台病院では16回の実績であった。

看護職員以外では、医師をはじめ、薬剤師等のコメディカル、その他の職員も院内外の研修会等に積極的に参加した。(財団新居浜病院 102回、豊岡台病院 18回)

### (2) 精神病の予防に関する普及及び宣伝

医師、看護師をはじめとして、薬剤師・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師等は、院外の研究会・研修会・学会・勉強会・交流会等へ積極的に参加し、最新の医学研究の情報収集に努めるとともに、外部の関係機関や関係者と連携して、

講演会・座談会・健康相談会等の開催及び講師の派遣を行い、患者家族及び一般の方々に、精神疾患に関する情報の提供や情報交換を行い、地域における精神疾患の予防に関する普及、宣伝に努めた。

### (3) 附属病院の経営

財団新居浜病院及び豊岡台病院の経営を行い、地域社会の要請する医療の提供に努めている。諸部門の強化充実を図るため、医療従事者の確保に努めているが、職員の採用には両院ともに苦慮している。

#### ① 財団新居浜病院

令和元年度の医業収入は、外来部門・入院部門とともに、対当初予算患者数を大幅に下回り、収入額は前年度よりも減少している。

対前年度実績では、入院部門は大幅に患者数が減少しているが、外来部門における減少幅は微小である。

##### 【入院】

(当初予算)	入院 1 日平均患者数	365 人	収入	1,856,507 千円
(実績)	"	353 人	"	1,791,630 千円
(前年度実績)	"	367 人	"	1,859,789 千円

##### 【外来（訪問等含む）】

(当初予算)	外来 1 日平均患者数	94 人	収入	331,090 千円
(実績)	"	85 人	"	295,945 千円
(前年度実績)	"	87 人	"	310,934 千円

医業収入全体で、前年度と比べ年間 82,148 千円の減少となった。

#### ② 豊岡台病院

経営コンサルタントの提案を参考にしながらも、劇的に変化するような方策を見いだせない中、収益性が低い整形外科外来の診察日の見直しを行い、若干人件費を削減することとなった。

また、休床している 2 階病棟を有効に活用すべく、作業療法室を移動する案などの検討を行ったが、作業療法士の退職などにより計画は頓挫した。

入院病棟では看護師、看護補助の補充ができない状態が続き、精神科病棟では 1 月には看護配置数の基準を割り込み、精神保健福祉士が産休に入ったことも影響し、入院患者数は 8 月初旬をピークに 2 月下旬までじりじりと減少し、収益は対前年度比△1,455 万円となった。療養病棟では医療区分 2 と 3 の割合が 85～87% 程度で推移し、患者数も前年度下期から引

き続き年間を通じて35～7名を維持した。前年度上半期は40名を超える入院患者数を維持していたため、年間で比較すると2,600万円の収益減となった。

栄養給食科でも同様に人手が不足し、嘱託の調理員が退職し補充要員を確保できない状態が長引き、管理栄養士が体調不良で退職するなど深刻な状態となり、調理された食材を仕入れる方式に切り替えることにより仕込みと献立業務を省き、少ない人員でも対応できるように作業手順を大幅に変更した。

秋以降、多くの部署で深刻な人員不足の状態となったが、財団新居浜病院からの業務応援や、ハローワークを通じて何人かの応募もあり、徐々に落ち着きを取り戻すことができた。

#### (4) 看護専門学校の経営

平成25年度より3年課程に変更し、第5期生の卒業生を社会に送り出した。

看護師資格の国家試験については、各種の受験対策を実施したが、残念ながら合格率85.2%にとどまり、納得できるものではない。今後とも試験対策の見直しと強化が課題となった。

学生募集については、25名の新入生と1名の転入生を受け入れたが、定員には及ばず、学生から選ばれる学校を目指し、引き続き全職員一丸となって対策を講じたい。

#### (5) 精神障害者の診療・治療

財団新居浜病院の入院診療・診断の経過において、令和元年度末で351名の患者が在院している。

主な疾病別の患者数と平均在院日数は次のとおりである。

病名	人数 (人)	平均在院日数 (日)
統合失調症	236	3,872
躁うつ病	13	1,584
認知症	70	741
器質性精神障害	17	2,248
アルコール中毒	5	431
覚醒剤中毒	3	3,031
知的障害	4	2,378
精神神経症	3	693

全体の疾病的うち、統合失調症が67%を占め、いずれの疾病も長期入院となっている。

豊岡台病院における精神科病棟の延入院患者数は33,167人/年(対前年比△1,403人/年)であった。

外来については、年間の延患者数は20,550人/年(対前年比△4,879人/年)で、年間の1日平均患者数は70.1人/日(対前年比△16.4人/日)となった。

このうち、精神科の延外来患者数は、9,238人/年(対前年比△376人/年)であった。

#### (6) 精神障害者の社会復帰の促進

財団新居浜病院、豊岡台病院ともに、医療社会事業科の精神保健福祉士が地域活動の中心的役割を果たしており、看護部ほかの協力を得て、院内外の患者及び家族との関係を密にした活動を行っている。

主な活動としては、懇談会・勉強会・小旅行等の実施・デイケア新聞の発行・納涼夏祭り・クリスマス会・新年会・落語会等のレクレーション活動の実施である。また、関係機関等との連絡会・交流会・学習会に積極的に参加し、コミュニケーションを深めることにより、精神障害者の医療、社会復帰等の支援に努めている。

#### (7) 居宅介護支援事業

愛媛県の介護保険の指定を受けて、要介護状態または要支援状態にある高齢者及びその介護者の居宅に関わる総合的な相談に応じ、サービスが適切に利用できるように適正な居宅介護支援サービスを提供している。

主な業務内容は次のとおりである。

- ①要介護・要支援認定等の申請について、申請の代行業務を行う。
- ②介護保険の説明、介護保険サービス利用についての相談等に応じる。
- ③利用者・家族の意向を聞いて介護サービス計画書の作成、担当者会議の開催、介護サービス事業所との連携を図り、サービスが適切に行えているか利用状況の把握を行う。
- ④毎月利用者の自宅を訪問し、利用者・その家族と会って毎月モニタリングを行う。
- ⑤必要に応じて介護サービス計画書の変更、必要なサービスの調整を行う。
- ⑥愛媛県、四国中央市で開催される研修会、勉強会、講演会等に参加し、介護支援専門員としての資質向上に努める。

#### (8) その他必要な事業

国立学校法人愛媛大学への寄付について

今年度も、寄付の目的「脳と心の医学」の研究のために、令和元年5月15日に100万円の寄付を実行した。

3. 当法人の職員の状況は次のとおりである。(令和2年3月31日現在)

(人)

	財団新居浜	豊岡台	学校	計
医師	7	4		11
非常勤医師	5	8		13
看護師	100	35		135
教員			12	12
准看護師	32	18		50
看護補助者	33	23		56
作業療法士	8	4		12
精神保健福祉士	9	3		12
薬剤師	4	3		7
管理栄養士、栄養士	7	1		8
臨床心理士、心理士	3	1		4
臨床検査技師	3	2		5
診療放射線技師	1	1		2
理学療法士		3		3
調理作業員	26	8		34
事務職員	24	11	4	39
その他	3	4		7
計	265	129	16	410

(法人事務局は、財団新居浜病院に含む)

以 上